

2. 館基本構想

八潮市立資料館基本構想

(昭和61年11月21日答申)

(1) 名称 八潮市立資料館

(2) 設置目的

八潮地方の地域資料を収集、整理、保存及び調査研究し、八潮市の文化向上と文化遺産の保存を図るために、八潮市立資料館（以下「資料館」という。）を設置し、資料館所蔵の諸資料を市民一般の活用供して、八潮の歴史と文化の発展に対する理解を深め、市民の愛郷心の育成に資することを目的とする。

(3) 資料館の機能

地域の歴史的発展と八潮市の現況を観察し、研究ができるとともに地域資料の収集、整理、保存と活用を図るため、地域文書館及び文化財センター的性格を有する次の機能をもたせる。

- ・八潮市民が諸資料の観察と活用を図り、地域の歴史、文化が形成されてきた過程が理解でき、文化を創造していく資料館とする。
- ・地域の考古、歴史、民俗等の資料、行政文書、地域文献を収集、整理、保管し、市民の文化遺産の保存が図れる資料館とする。
- ・地域文化の向上を図るため、講演、講座、見学会等の事業、編纂物の刊行、調査、研究を行う資料館とする。

(4) 展示

八潮地方の自然風土の中で、八潮の歴史と文化、産業の発展を観察し、明日への新しい市民文化の創造性を高めるために、展示は常設展示、企画展示、民家展示とする。

① 常設展示

八潮市は、海拔5メートル以下の中川低地の中ほどにある低湿地に位置する。その中川低地の形成並びに祖先が低湿地を切り開いてきた原始から今日までの水の克服、自然風土を活かした産業と文化の発展が観察できるようにするため、メインテーマを設定する。

私たちの祖先は、八潮の東西に流れる中川と綾瀬川により形成された肥沃な土地を開墾し、川の幸をうけ生活水、農業用水、舟運として川を利用して、住みよいまちづくりに努力してきた。ところがその川も、時には氾濫して田畑や家押し流し、住民を苦しめた。私たちの祖先は、さまざまな自然災害を克服して、川の水を利用し稲作、染色、舟運業、漁業などの生業を発展させた。しかし、昭和30年代の後半から住宅・工場が進出し、かつての生業や生活が近代化して、八潮の自然景観も変わった。

そこで、八潮の歴史的発展を問いなおし、八潮の明るい未来が展望できるような展示をするために、メインテーマを「水と生活」とする。

② 企画展示

市民の文化形成の深化を図るために、考古、歴史、民俗、美術などについて、一定期間の企画展示を

行う。また、市民、学校、社会教育機関などの連携を図り企画展示も行う。

③ 民家展示

往時の生活の具体相を明らかにするため、テーマを設定し、家具、農具、生業生具などを民家に展示し、生活伝承の大切さが理解できるようにする。

(5) 施設

資料館の目的と機能を実現するために、次の施設を必要とする。

① 位置と規模

資料館は、八潮市大字南後谷 763 番地 50 に設置する。その規模は、延床面積を 2000 平方メートル（民家面積は含ませない）を下まわらないようにし、土地を有効的に利用するため、地上 3 階の鉄筋コンクリート造りの和風建築様式とする。

なお、民家は創建時に復元保存し、床下を民具収蔵庫、屋根裏部屋を調度品保存庫として利用する。

② 展示施設

展示施設は、常設展示室、企画展示室、コーナー及び民家（土間・部屋・屋外）等とする。

③ 教育普及・研究室

教育普及と調査研究の効果を図るために、視聴覚講座室、学習室、会議室、閲覧室、研究室等を設ける。

④ 資料保存施設

諸資料の永久保存を図るために、収蔵庫、特別収蔵庫、文書収蔵庫、資料庫、マイクロフィルム収蔵庫、撮影及び現像室等を設ける。

⑤ 管理施設

資料館運営の円滑を図るために、受付、管理室、応接室、機械室、エレベーター、湯沸室、トイレ、和室、荷解室、及びくん蒸室等を設ける。